

第4回 富山県地域交通戦略会議の開催結果について

1. 日時 令和5年2月8日（水）15時00分～

2. 概要

(1) 富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿について

- ・事務局から各部会の開催結果や目指すべき姿(案)を説明し、意見交換の結果、会議として次のとおり了承した。

※詳細は別紙のとおり

<富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿>

- 全市町村に鉄道が通る本県の強みを生かし、鉄軌道や駅を中心に、あらゆるサービスが一つにつながるネットワークを県全体で形成し、ウェルビーイングを向上させる持続可能で最適な地域交通サービスを実現
- 県民に発信・共有を図りながら、実現に向けて目指すべき4つの姿について具体的な方策等を検討
 - (目指すべき姿その1) 鉄軌道サービスの利便性・快適性向上
 - (目指すべき姿その2) 結節点となる駅の機能強化
 - (目指すべき姿その3) 地域内のモビリティサービスの確保
 - (目指すべき姿その4) ネットワーク内のサービスの統合・進化

(2) 意見交換（主なもの）

- ・全市町村に鉄道が通ることは地域の財産。県民に発信していくべき。
- ・市町村のまちづくりとの連携が不可欠。鉄道駅の拠点化や駅空間の活用について、まちづくりの主体である各市町村が立案することが重要。
- ・交通は移動の手段であり、目的地となる医療や福祉、教育、観光、商業、環境、地方創生、道路等の各分野・部局との連携強化、予算の総動員が重要。
- ・人に焦点を当て、中心に据えて、部局横断、市町村連携で進めてほしい。
- ・県民が自分ごととして考え、参画につながるような啓発・広報活動を。
- ・MaaSにより移動データを取得し、関係者間で活用していくことや、公共交通と目的地との連携を進めていくには、行政の積極的な関与が必要。
- ・免許返納後の移動確保には、返納前からの周知が必要。免許更新時に公共交通や乗り方教室、MaaSアプリの情報提供（チラシ配布等）を検討すべき。
- ・部活動の地域移行に向け、生徒送迎の新たな仕組みがあればよい。
- ・時短勤務で出勤時刻を後ろ倒ししている子育て世代も使いやすいダイヤ設定、増便などの対応も今後考えていかないといけない。
- ・駅のバリアフリー化や増便のための車両導入について、国に支援基準の弾力化を求めるなど、今後の対応を検討してほしい。